

株式会社 北洋銀行 会社説明会資料

東証プライム市場・札証
証券コード8524

2024年7月11日
取締役頭取 津山 博恒



本日のテーマ

I	プロフィール	P.1～
II	経営成績	P.5～
III	経営戦略	P.12～
IV	株主還元・株価の状況	P.23～

(ご注意事項)

- 資料には北洋銀行グループの将来の業績、経営目標などに関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は経営環境の変化などにより、予想と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。
- 北洋銀行以外の金融機関に関する情報は一般に公知の情報に依拠しております。
- 表示金額は特にことわりのない場合、表示金額未満を切り捨てております。

I プロフィール

II 経営成績

III 経営戦略

IV 株主還元・株価の状況



ほっくー

1. これまでの歩み

沿革

大正6(1917)年8月

北海道無尽株式会社として創立

昭和26(1951)年

北洋相互銀行に商号変更

平成元(1989)年

普通銀行に転換、北洋銀行に商号変更

平成10(1998)年

北海道拓殖銀行より営業譲り受け

平成13(2001)年

札幌北洋ホールディングス設立

平成20(2008)年

札幌銀行と合併

平成24(2012)年

札幌北洋ホールディングスと合併

平成29(2017)年

創立100周年

令和2(2020)年

新たな経営理念の策定

【経営理念】

お客さま本位を徹底し、

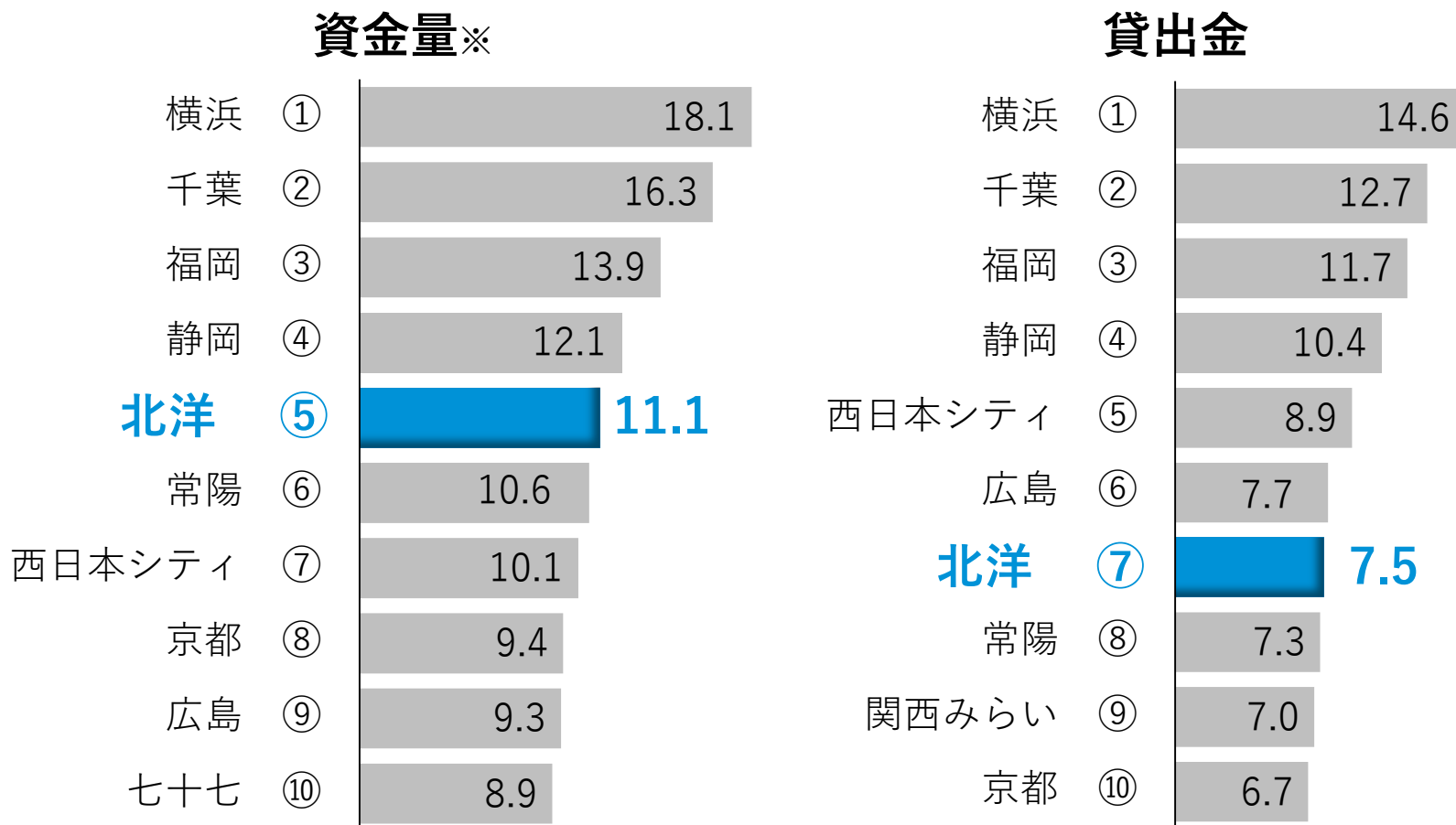
多様な課題の解決に取り組み、

北海道の明日をきりひらく

2. 国内の位置付け

資金量・貸出金の規模は全国の地域銀行で5～7番目

2024年3月末現在（単位：兆円）



※資金量＝預金＋譲渡性預金

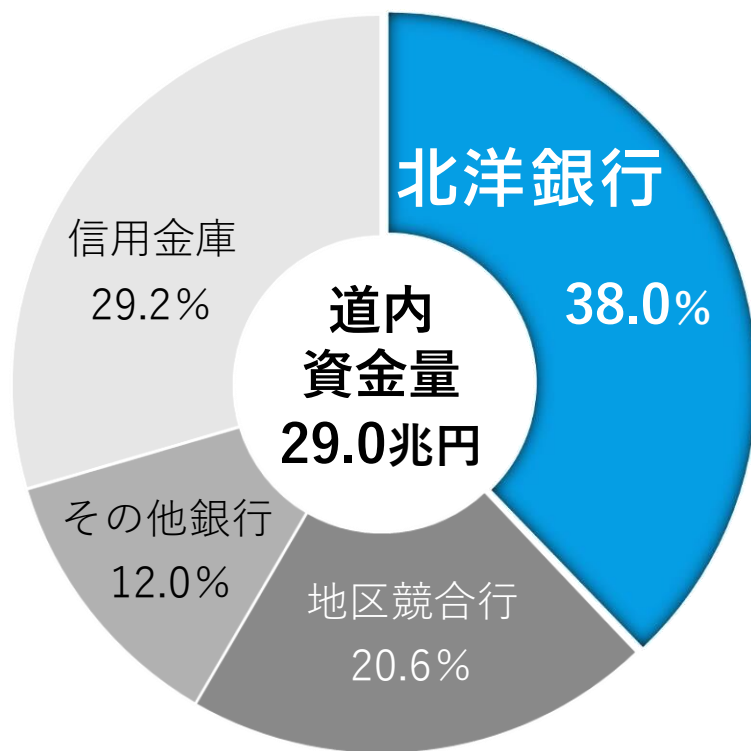
（出所）各行決算資料

3. 北海道内のシェア

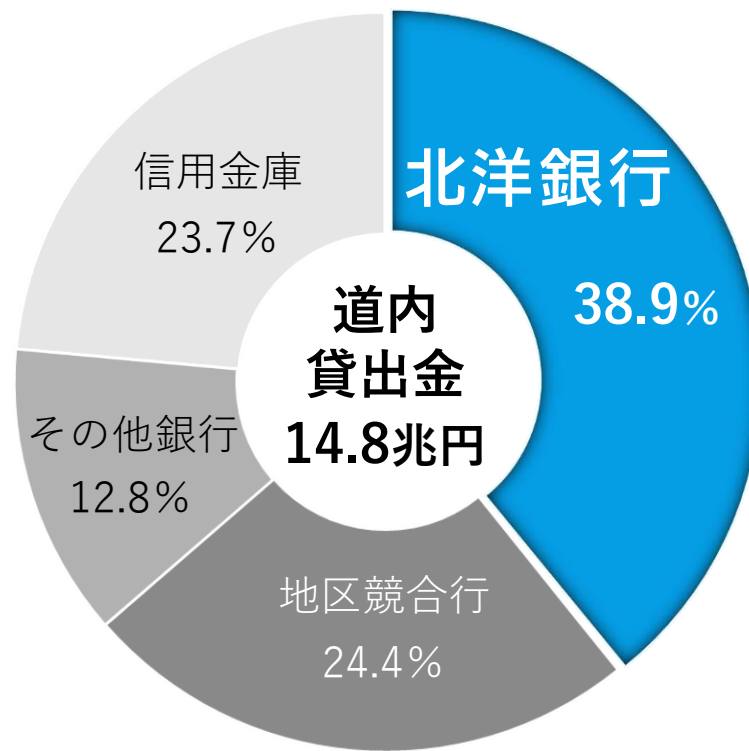
圧倒的な道内第1位のシェア

2024年3月末現在

資金(預金)量シェア



貸出金シェア



- ・道内に本支店のある国内銀行（ただし、ゆうちょ銀行、整理回収機構除く）および信金の残高に基づくシェア
- ・預金は譲渡性預金含む（道内信金の譲渡性預金については、全国の信金の譲渡性預金残高から推計）
- ・シェアについては切り捨てにより合計が100%になりません

（出所）日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」、信金中金 地域・中小企業研究所「全国信用金庫概況」、「信金中金月報(速報値)」、各行決算説明資料等により推計

4. 北洋銀行の強み

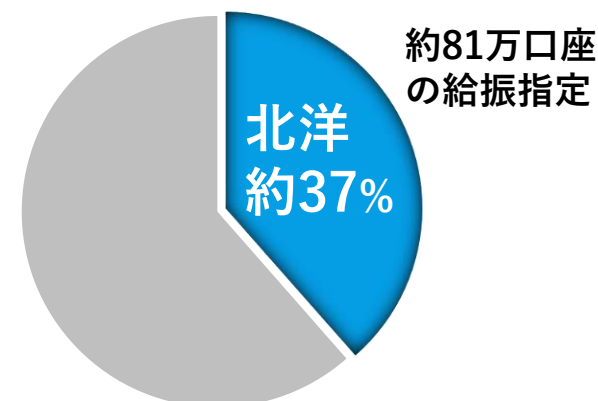
メインバンク取引社数 地銀 No.1

地域銀行ランキング

順位	銀行名	社数
第1位	北洋	23,728
第2位	福岡	22,444
第3位	千葉	21,462
第4位	西日本シティ	20,985
第5位	第四北越	17,982
第6位	静岡	16,749
第7位	横浜	16,743
第8位	広島	15,946
第9位	常陽	15,662
第10位	中国	15,145

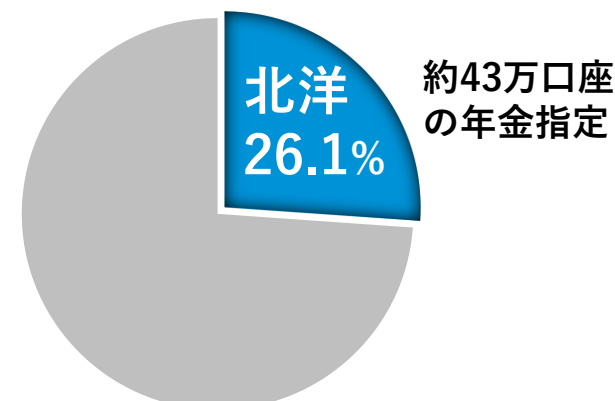
(出所) 帝国データバンク：全国企業メインバンク動向調査（2023年）

【道内給料振込みのシェア】



※令和3年経済センサスから道内従業者数より推定

【道内年金受給のシェア】



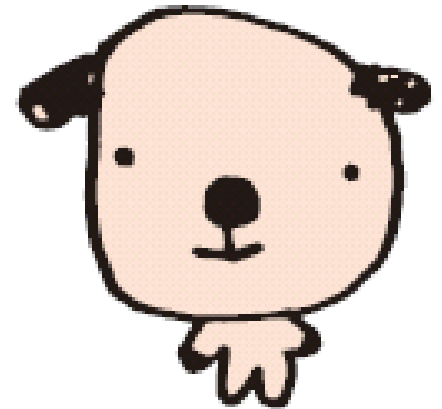
※令和4年住民基本台帳から道内65歳以上人口より推定 4

I プロフィール

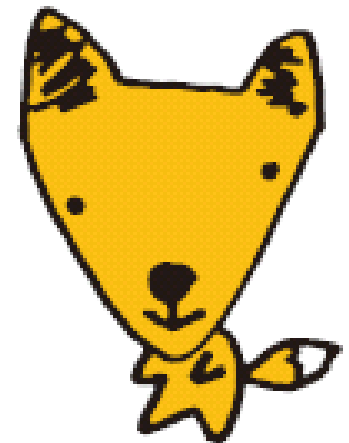
II 経営成績

III 経営戦略

IV 株主還元・株価の状況



こわんた



きたこん

1. 2024年3月期決算の概要【単体】

コア業務純益、当期純利益は2期ぶりの増益

	【単体】（単位：億円）	'24/3期実績	前年比	業績予想比
1	コア業務粗利益	826	△ 0	+17
2	資金利益	718	19	+21
3	貸出金利息	582	5	△ 10
4	有価証券利息配当金	132	21	+20
5	その他資金収支	6	△ 6	+12
6	役務取引等利益	102	△ 11	△ 5
7	その他業務利益	5	△ 8	△ 0
8	経費(臨時処理分除く) (▲)	624	△ 13	△ 22
9	コア業務純益	201	12	+39
10	信用コスト(▲)	60	12	+20
11	有価証券関係損益	21	△ 2	△ 0
12	経常利益	177	△ 1	+18
13	当期純利益	128	23	+18

2. 2024年3月期決算の概要【連結】

前年比増収増益、子会社の業績も前年から良化

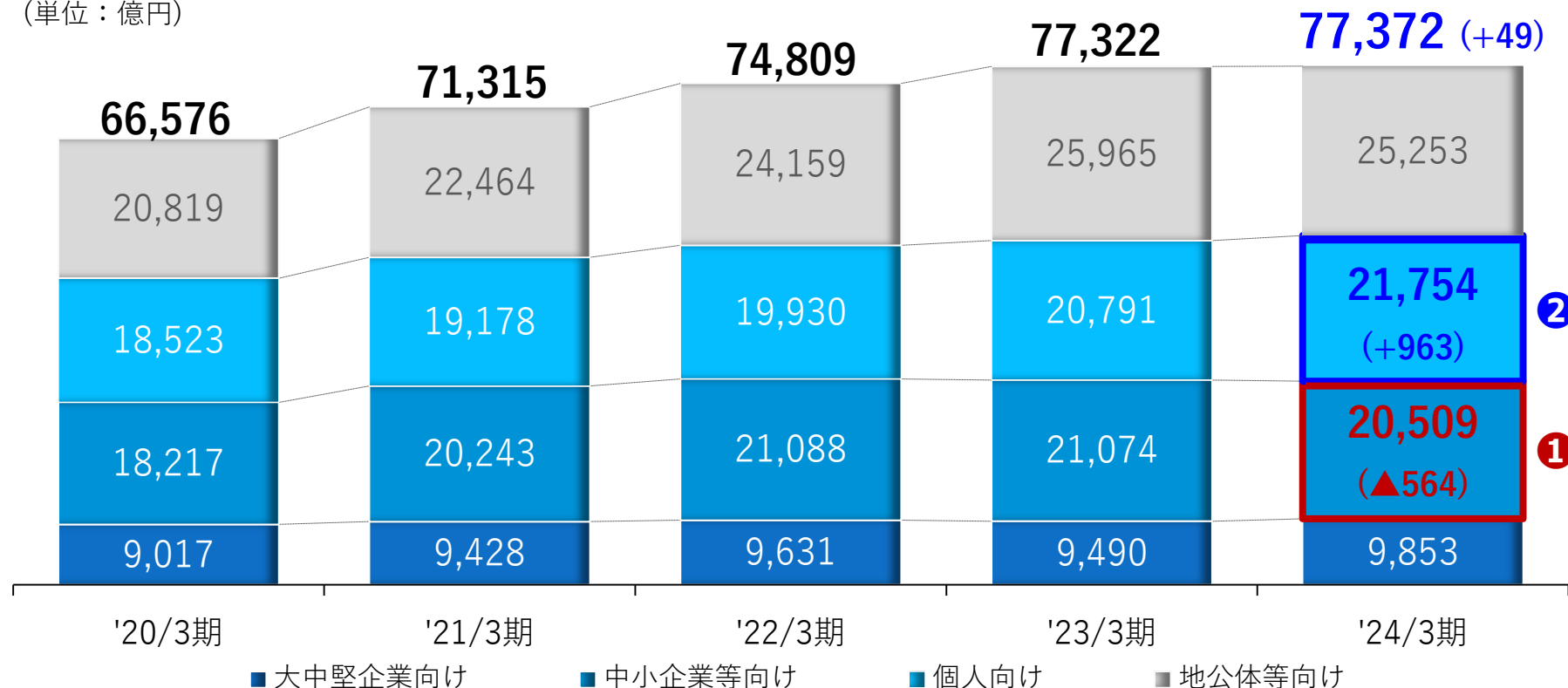
【連結】（単位：億円）	'24/3期実績	前年比	業績予想比
連結経常収益	1,331	+63	+81
親会社株主に帰属する当期純利益	128	+31	+17

連結子会社の状況		'23/3期	'24/3期	前年比
札幌北洋リース	経常収益	227	241	+13
	純利益	4	6	+1
ノースパシフィック	経常収益	23	22	△ 0
	純利益	2	3	+0
北洋証券	経常収益	10	15	+5
	純利益	△ 6	△ 2	+3
北海道共創パートナーズ	経常収益	9	12	+3
	純利益	2	3	+0
その他 2 社	経常収益	26	28	+1
	純利益	1	1	+0
子会社合計	経常収益	297	320	+23
	純利益	5	12	+6

3. 貸出金(平均残高)の状況【単体】

無利子融資の想定以上の返済も、住宅資金などでカバー

(単位：億円)



① うち道内中小企業 19,291億円 (前年比▲647億円)

→無利子融資の想定以上の返済 (繰上返済約480億円、約定返済約570億円)

② うち住宅資金 20,446億円 (前年比+945億円)

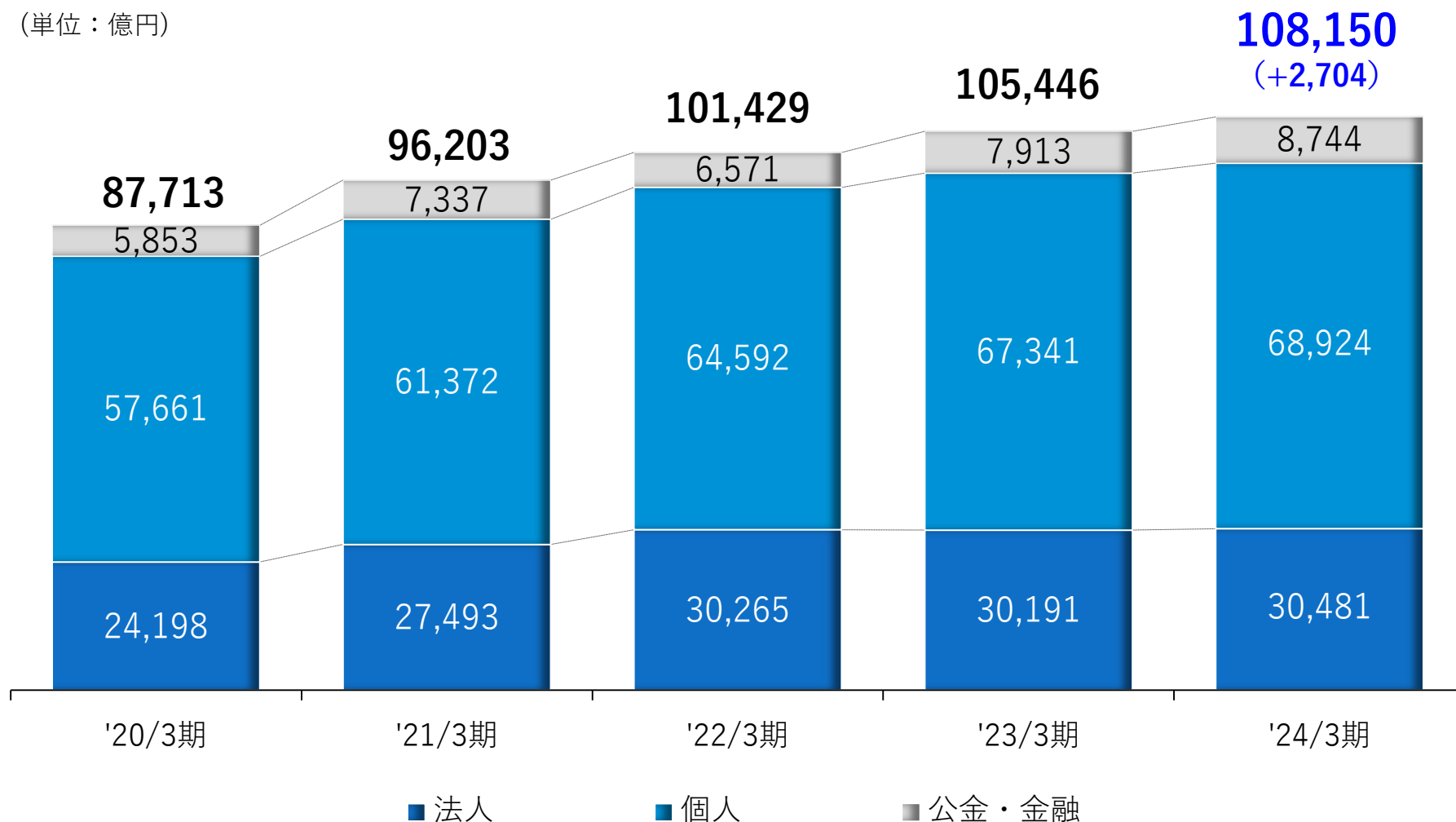
→道内新設住宅着工戸数減少するなか、住宅業者との接点強化等により住宅ローンが堅調

4. 預金(平均残高)の状況※【単体】

※ 譲渡性預金を含む

個人を中心に、預金は15期連続の増加

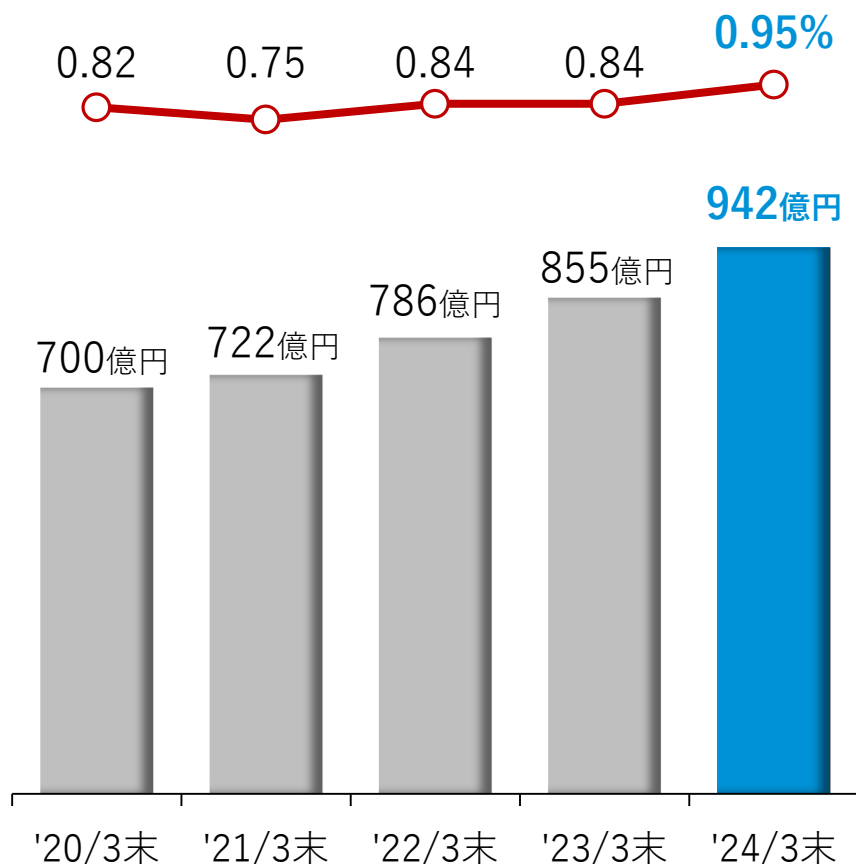
(単位：億円)



5. 不良債権の状況【単体】

地域銀行の中でも極めて低い水準

■ 不良債権の推移※



■ 地銀貸出金上位10行の不良債権比率

順位	銀行名	不良債権比率
第1位	静岡	0.91%
第2位	千葉	0.92%
第3位	北洋	0.95%
第4位	横浜	1.10%
第5位	広島	1.25%
第6位	常陽	1.31%
第7位	京都	1.36%
第8位	福岡	1.45%
第9位	西日本シティ	1.54%
第10位	関西みらい	1.76%

※ 部分直接償却後の債権額および比率（部分直接償却は未実施）（出所）各行2024年3月期決算資料

6. 2025年3月期業績予想

道内成長投融资、金利環境の変化を主因に増益を見込む

【単体】 (単位：億円)	'24/3期実績	'25/3期計画	前年比
コア業務粗利益	826	860	33
資金利益	718	747	28
貸出金利息	582	616	33
有価証券利息配当金	132	141	8
その他資金収支	6	14	8
役務取引等利益	102	101	△ 0
経費(臨時処理分除く)(▲)	624	648	23
コア業務純益	201	211	9
信用コスト(▲)	60	20	△ 40
経常利益	177	224	46
当期純利益	128	154	25
【連結】 (単位：億円)	'24/3期実績	'25/3期計画	前年比
経常利益	186	234	47
親会社株主に帰属する当期純利益	128	155	26

7. 金利上昇シミュレーション

金利上昇は期間収益にポジティブに影響

2025年3月期見込(平均残高)

市場連動貸 2.1兆円	流動性預金 9.0兆円
短プラ貸出 1.0兆円	
固定貸出 4.6兆円	
有価証券 2.6兆円	
日銀預け金 2.5兆円	
運用12.8兆円	定期性預金 2.0兆円
	日銀借入等 1.8兆円
	調達12.8兆円

2024年10月
政策金利**0.50%**へ※

2025年3月期 期間収益への影響

計+31億円	
貸出金収益+30億円	
その他+45億円	
預金利息▲44億円	

※ シミュレーション上の前提条件

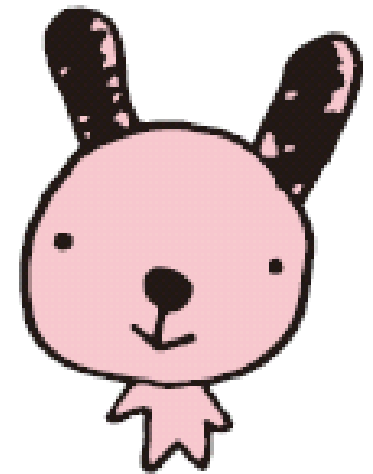
■国債10年金利 1.20% ■市場金利(3ヶ月TIBOR) 0.70% (追随率70%) ■預金金利は市場金利上昇を踏まえた引き上げ(追随率40%)

I プロフィール

II 経営成績

III 経営戦略

IV 株主還元・株価の状況



らびりん



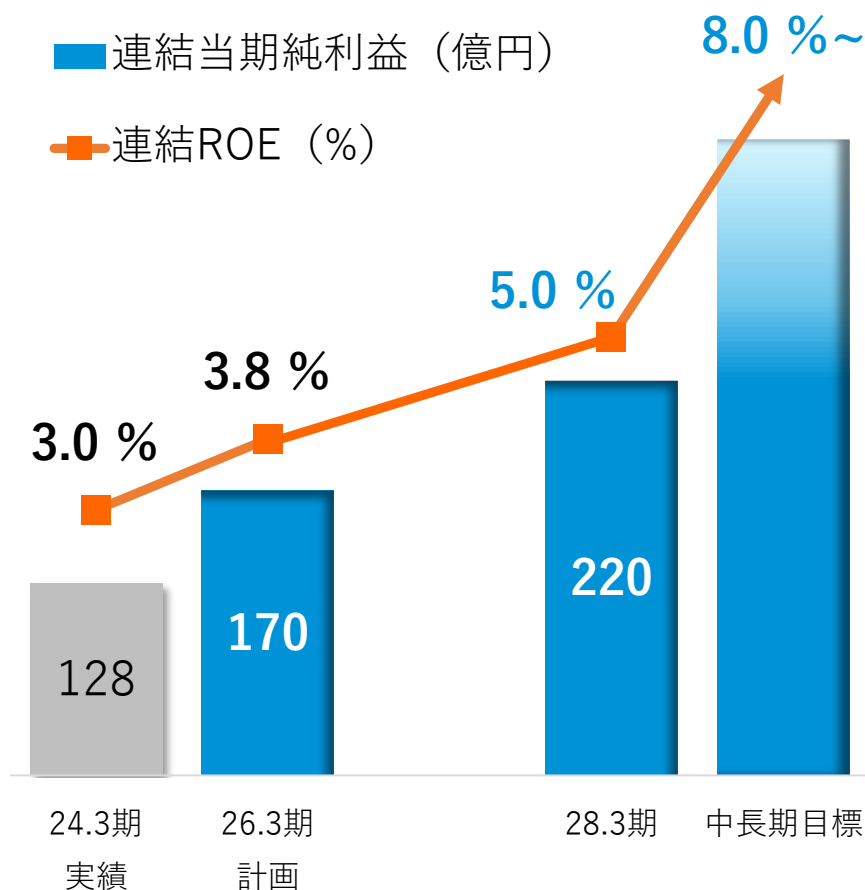
まりりす

1. ROE※向上に向けて

※ ROE (Return On Equity : 自己資本利益率) = 当期純利益 ÷ 自己資本

3つの取組みを柱にROE向上を加速化させる

■ ROEと利益水準のイメージ



収益の強化

成長期待分野への投融資
法人部門・個人部門

コストコントロール

チャネル戦略
デジタル戦略

資本政策

政策保有株式の縮減
自己資本比率・株主還元

2. 成長期待分野への投融資① ～次世代半導体関連～

工場建設の進捗は計画通り 周辺インフラの整備も進む

工場建設の進捗

- 工事全体の進捗率は当初計画通り
(5月7日時点進捗率**26%**～千歳市発表)



写真提供：Rapidus 株式会社

経済産業省

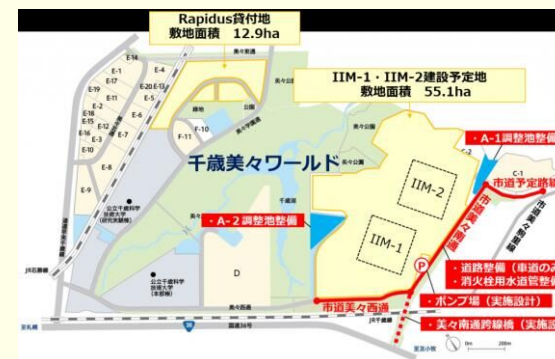
24年度補助金**5,900億円**
(22～23年度**3,300億円**)

北海道24年度予算案

ラピダス拠点形成**1億円**
工場用水整備費**24億円**

周辺インフラの状況

- 周辺道路は**実施設計**が完了し、整備が進む
- 水を確保するための**水道管の敷設**、廃水処理に対応するための**下水処理施設の整備**も予定



出所：千歳市特設HP

2. 成長期待分野への投融資① ～次世代半導体関連～

ラピダスプロジェクトの進捗に伴い融資額も増加中

半導体関連融資の状況（累計ベース）

ラピダス社第1工場 工事マイルストーン

起工式

2023年9月

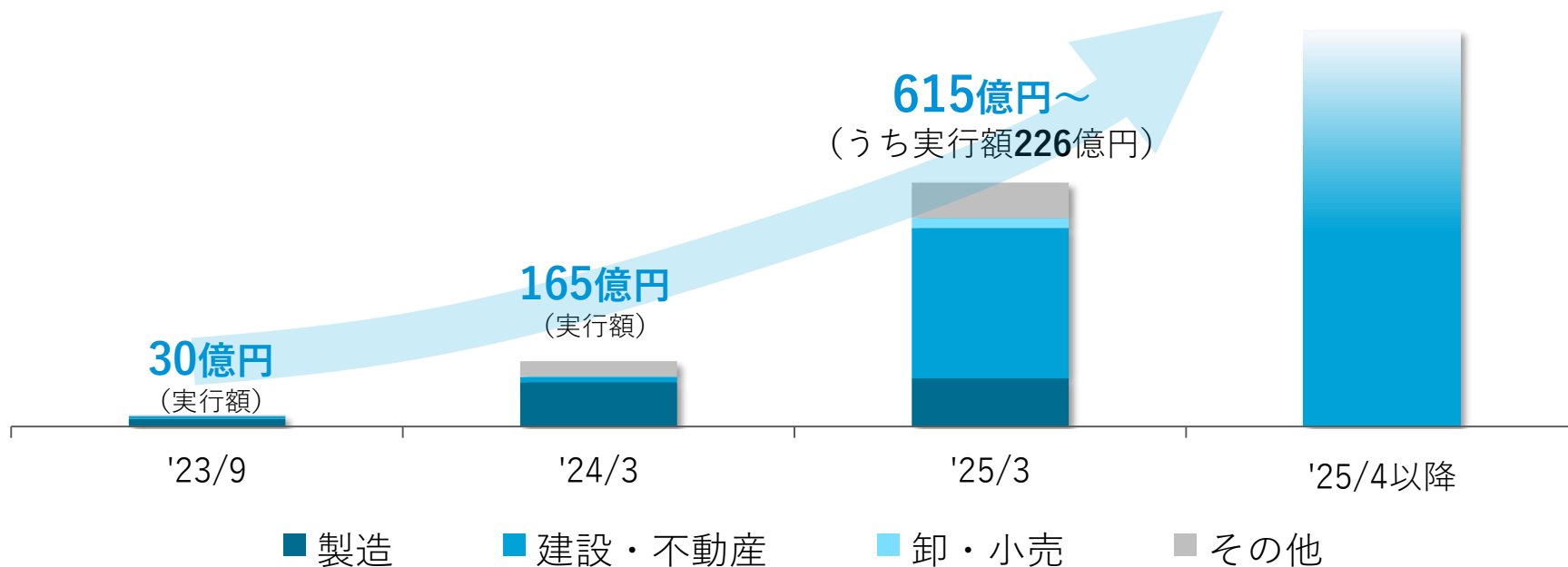
地上躯体
工事完了

2024年12月

試作ライン
稼働開始

2025年4月

融資額が増加



2. 成長期待分野への投融資② ～GX関連～

北海道のポテンシャルを活かし、大規模なGX投資を呼び込む

北海道のポテンシャル

■ 道内の洋上風力「有望な区域」

着床式

① 石狩市沖 ② 岩宇・南後志地区沖 ③ 島牧沖 ④ 檜山沖 ⑤ 松前沖

浮体式

① 岩宇・南後志地区沖 ② 島牧沖



石狩湾新港洋上風力発電所着床式)



写真提供：株式会社グリーンパワーインベストメント

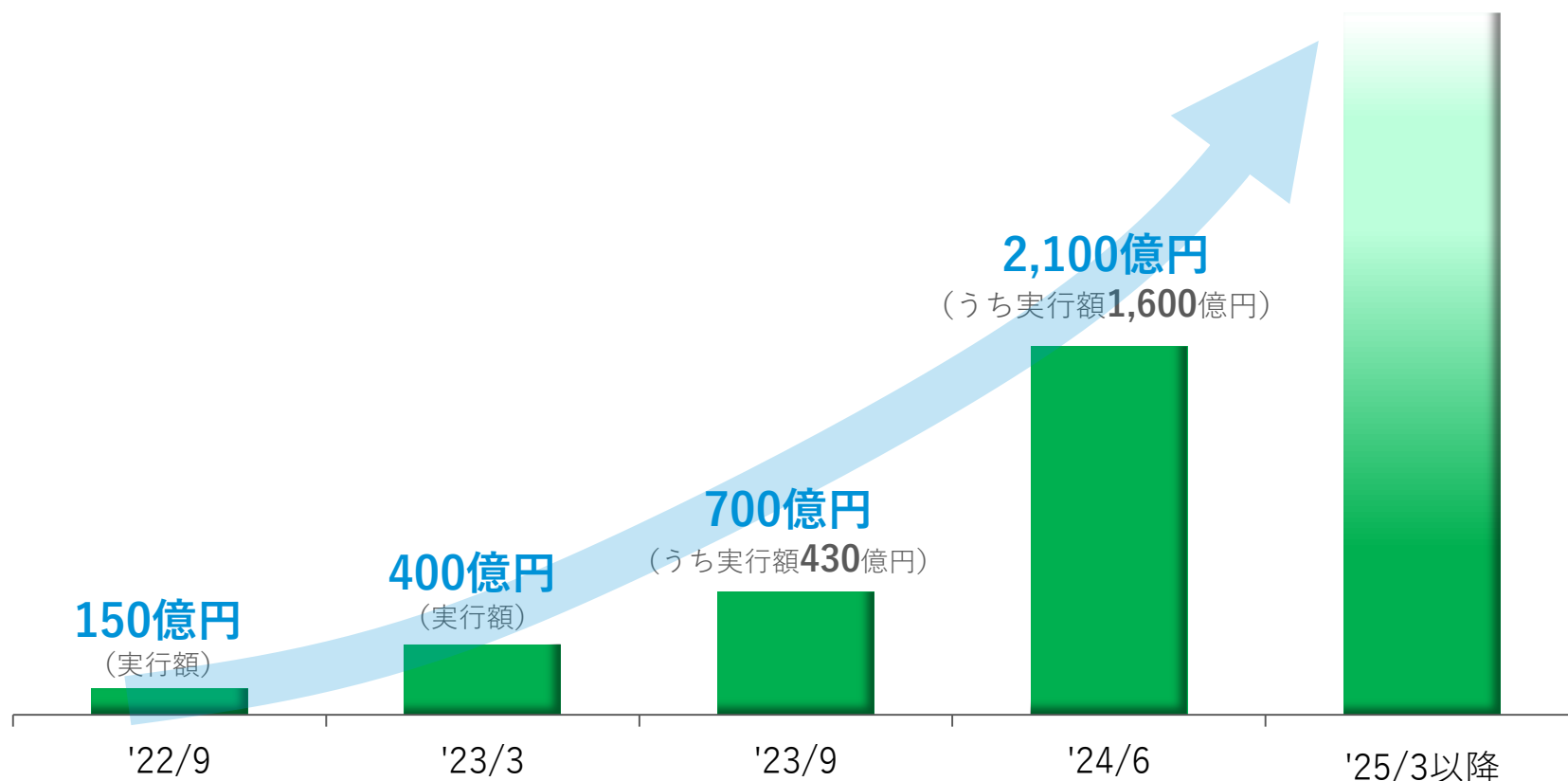
日本における洋上風力案件形成目標（2040年4,500万KW）の1/3を北海道が占める

2. 成長期待分野への投融資② ～GX関連～

G X 投資に係る融資は大幅に増加

GX関連融資の状況（累計ベース）

融資（含む道外案件）は大幅に増加



3. 法人部門

事業成長サポートを通じた実需をグループ一体で取り込む

事業成長サポートへの取組み

■2023年度取組件数**218**件（中期経営計画比+18件）

■取組開始後初年度で約1,400件超の商材を発掘

■**HKP**※関連の商材が多く、貸出商材も徐々に増加

※ 北海道共創パートナーズ

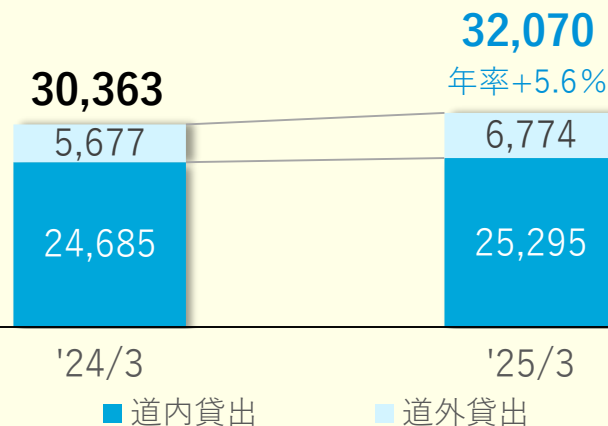
商材の内訳	件数
HKP コンサルティング	755
HKP M & A・事業承継	163
HKP サステナビリティ関連	118
HKP 人材関連	91
HKP その他	53
ビジネスマッチング・不動産関連	158
その他	50
合 計	1,388

上記のうち貸出関連商材は約**400**億円

■**HKP**事業計画

営業収入（億円）	'24/3	'25/3	前年比
コンサル	4	5	+0
人材紹介	2	2	▲0
M & A・ファンド	4	4	+0
WM・SDGs	1	2	+1
合 計	12	14	+2

■法人貸出計画(平均残高)



4. 個人部門

『長期・分散・積立』による資産形成サポート

■ TVCM配信開始

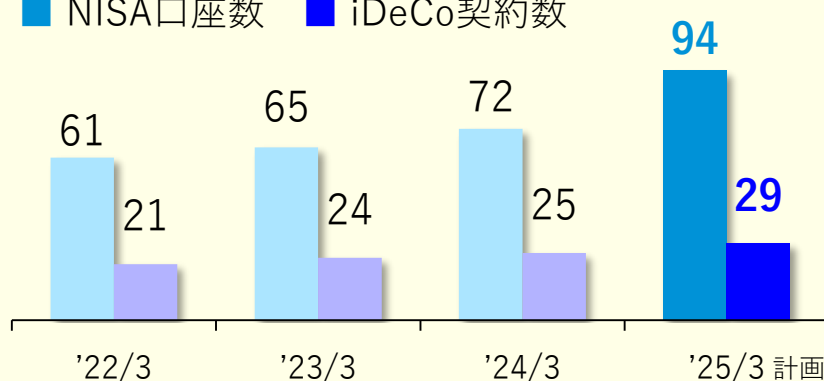


■ 投信WEB口座開設開始

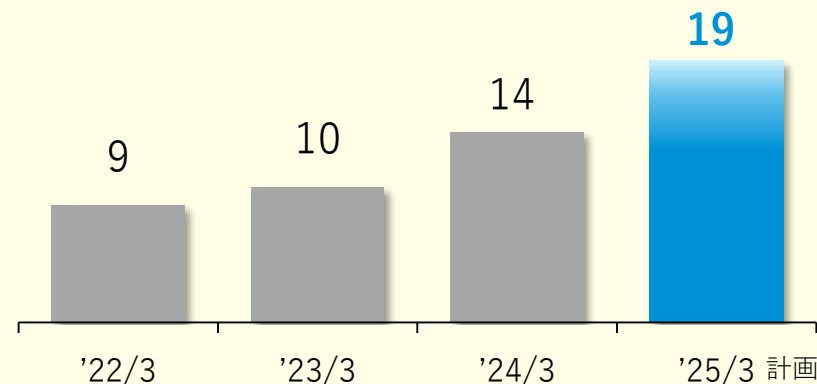


■ NISA口座数・iDeCo契約件数 (件数)

■ NISA口座数 ■ iDeCo契約数



■ 投信積立 月間積立額 (億円)



5. デジタル戦略①

デジタルを活用し、お客さまの利便性と当行の生産性を向上

個人ポータルアプリ(北洋銀行アプリ)

導入：2023年9月

■ アプリ登録者数 (累計)

'24/3実績

中期経営
計画 8万件▶ 実績 **11**万件

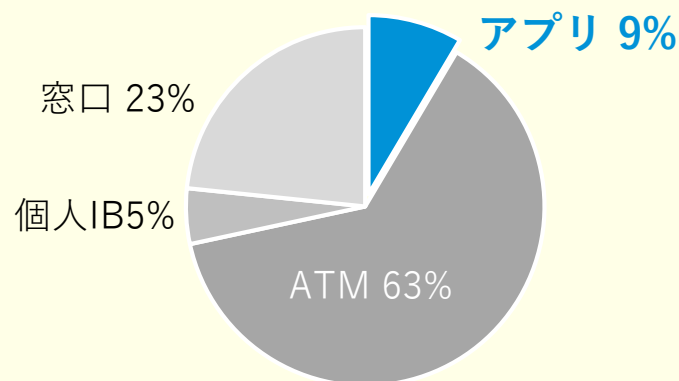
'25/3見込

中期経営計画 17万件

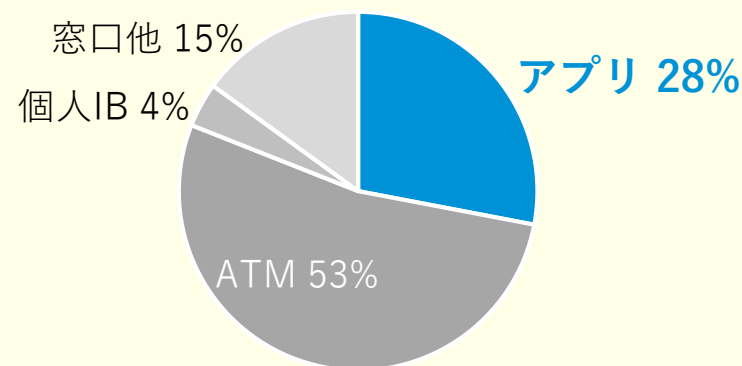
▶ 見込 **35**万件

■ 仕向送金のチャネル別割合 (個人)

2024年3月実績

稼働後6ヶ月で全チャネルの **1 割** に到達

2025年3月見込

全チャネルの **3 割** へ

5. デジタル戦略②

デジタルを活用し、お客さまの利便性と当行の生産性を向上

店頭業務タブレットシステム(TSUBASAスマイル)

導入：2024年7月予定

■ローカウンター業務 ⇒ 受付時間の40~60%を削減

主要メニュー	紙受付	Smile受付	削減時間
普通預金新規	60分	20分	40分
変更届	21分	10分	11分
喪失届	17分	10分	7分

■投資効果

⇒5年間で18億円コストダウン

■共同化メリット

⇒単独開発に比べ3億円開発費が抑制



6. チャネル戦略

店舗機能を再構築 新たなチャネルの検討

店舗戦略

実績

- 2023年度に**11ヶ店**の法人融資機能集約を実施（札幌・地方都市圏9ヶ店、地方圏2ヶ店）

直近の予定

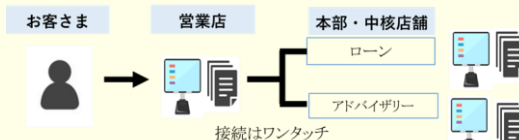
- 2024年度上期に法人融資機能集約**24ヶ店**、BIB※方式による店舗統合**3ヶ店**実施予定
- 中期経営計画におけるBIB方式による店舗統合は全拠点数140拠点のうち**1割程度**を予定
- 拠点数は**125拠点程度**となる予定

その他取組予定

- **共同窓口**の導入 ⇒ 他金融機関と共同窓口設置を検討
- **遠隔面談システム**の導入 ⇒ 2024年5月に30ヶ店導入（24年度上期中に15ヶ店追加予定）



遠隔面談システム



※ ブランチ イン ブランチ＝店舗内店舗

人員創出効果

'23年度	'24年度	'25年度	合 計
13人	66人	39人	118人

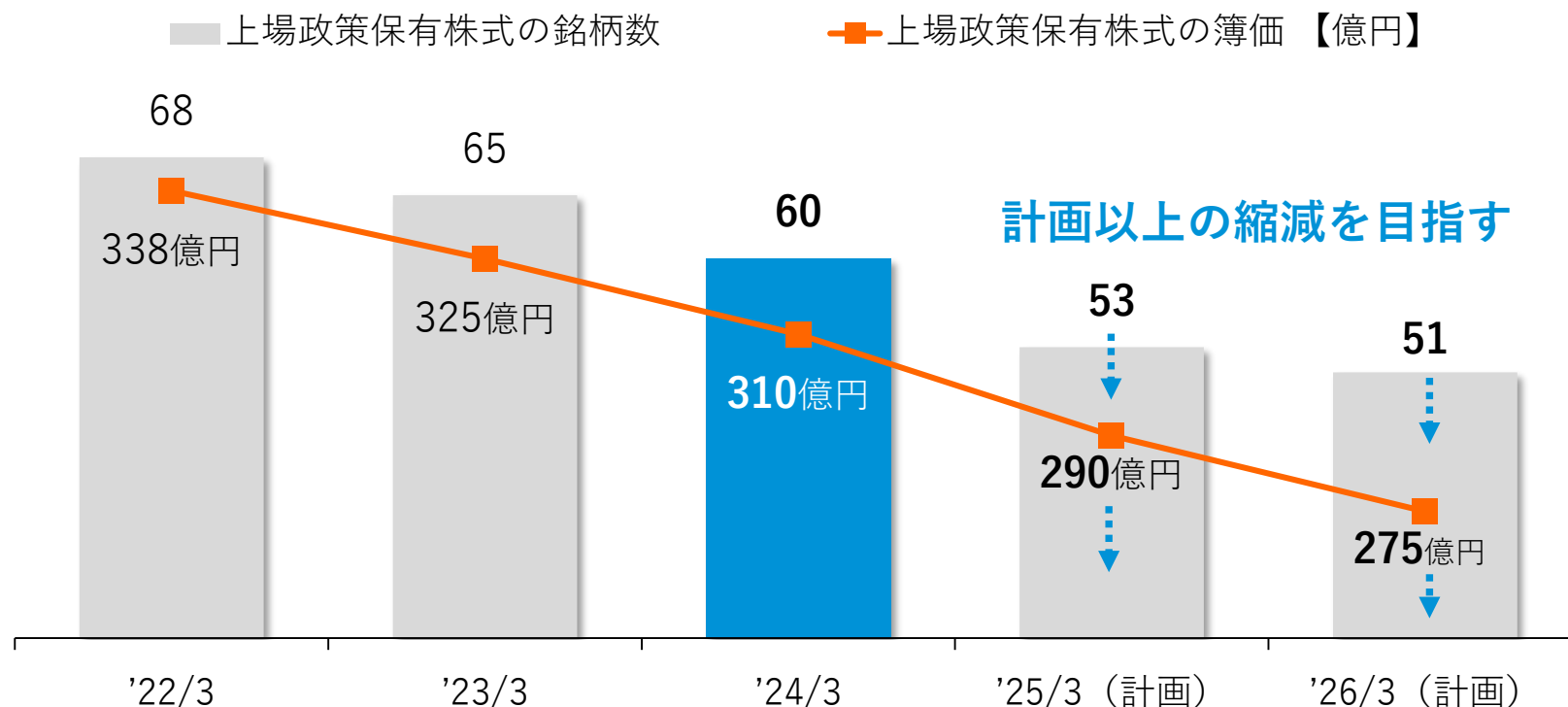
経費削減効果

'23年度	'24年度	'25年度	合 計
1億円	6億円	6億円	14億円

7. 政策保有株式

政策保有株式のさらなる縮減へ

上場政策保有株式の銘柄数と簿価の状況



■ 個別銘柄毎に保有意義を検証し、当行の縮減方針について取引先との対話を実施

⇒ '26/3末までの縮減目標50億円に対し '24/3末時点で**15億円**を縮減（進捗率30%）

■ 取引先と十分な対話を行い、縮減方針に理解を得た銘柄の**更なる縮減を進める**

I プロフィール

II 経営成績

III 経営戦略

IV 株主還元・株価の状況



もりほー



もぎゅ

1. 株主還元方針

株主還元の更なる充実

新たな株主還元方針



2024年度（2025年3期）より適用

1株当たり年間10円の安定配当を維持しつつ
配当性向を30%以上とする※1

自己資本比率の水準、業績見通しや外部環境等を勘案し
総還元性向は50%を目安とする※2

自己株式の取得は柔軟かつ機動的に実施する

※1 業績連動配当金は廃止

※2 総還元性向 = (年間の配当金総額 + 自己株式取得総額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益

2. 株主優待制度

当行株式の魅力を高めるとともに、地域振興にも貢献

株主優待制度を導入

▶ 初回基準日は2024年9月30日
2回目以降は2025年3月31日以降の毎年3月31日

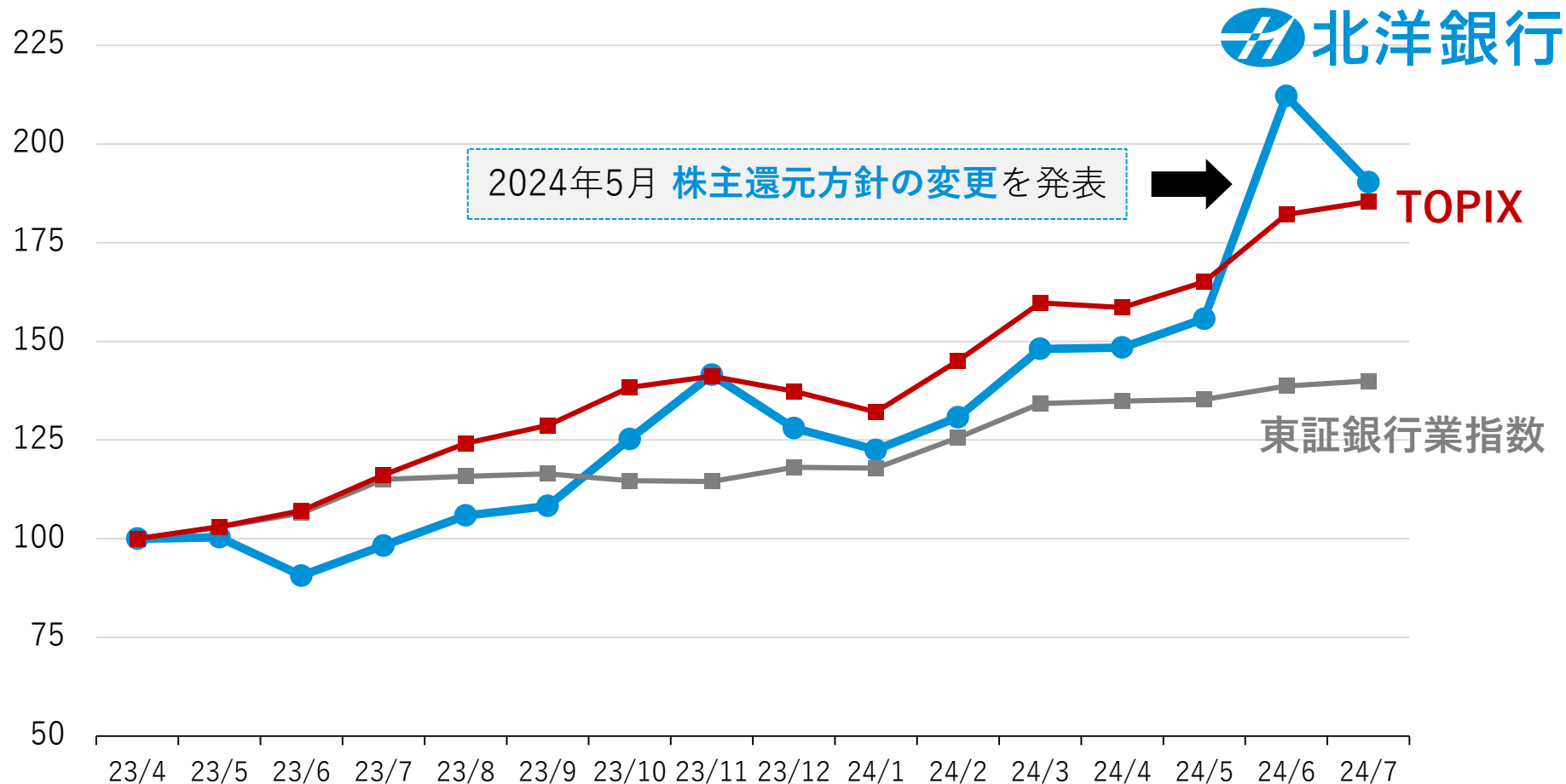
優待の内容	北海道の特産品を掲載したカタログギフトからお好みの優待品をご選択		
対象者・基準	国内の個人の株主さま・法人の株主さま		
	株数基準\保有年数基準	1年以上5年未満	5年以上
	2,500株以上5,000株未満	3,000円相当	6,000円相当
	5,000株以上	6,000円相当	9,000円相当



3. 株価の動向

足元はT O P I Xや東証銀行業指数を上回る推移

各株価の推移 (2023年4月 = 100)



あす
～北海道の明日をきりひらく～

ご清聴ありがとうございました

